

第5学年B組 外国語活動学習指導案

授業者 石田 智之(HRT), Mark Jones (ALT)
研究協力者 佐々木雅子, 若原 保彦

1 単元名 I like pineapples. 友達のことをよく知るために「Who am I? クイズ」をつくろう！

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

本学級の多くの子どもたちは、外国語に親しんだりゲームをしたりすることを楽しみにしており、簡単な英単語やあいさつ等の表現には慣れ親しんできている。また、外国の文化紹介やALTの出身国の話を興味深く聞き、少しずつ視野を広げてきている。

外国語活動についてのアンケート(4/28実施)を行ったところ、全体的には外国語活動(4年生までの英語活動を含む)の授業を楽しんだり進んで参加したりしているほか、「外国の人とやりとりすること」や「英語を使って伝え合うこと」に関心をもっている子どもが多く見られた。反面、「英語を使って発表する」「英語を使って質問をする」ことを躊躇している子どもも見受けられるため、さらに子どもたちの知的好奇心を刺激したり、英語を使って伝え合う必要感や楽しさを感じさせたりする授業づくりが必要と考える。

(2) 単元について

年度内に何回か秋田大学の留学生との交流を計画している。それに向けて子どもの意欲を継続しつつ、それまで慣れ親しんだ英語表現を使って交流できるよう、「Hi, friends! 1」を基に交流に向けて各単元を位置付けている。

本単元は、「I like ~.」「I don't like ~.」の表現を主に使い、友達になりきって好き嫌いを紹介する。クラス替え後のこの時期に、他者理解を含めたコミュニケーションを図ることは学級づくりの点からも意義があり、よりよい仲間意識につながるものと期待している。また、自分や友達についての紹介をする活動により、留学生に対する自己紹介の際にも使える英語表現に慣れ親しみ、交流活動への自信や期待につながることでできる単元であると考えられる。

また、本単元で主に扱う食べ物・スポーツ・生き物等を表す英語表現は、外来語化しているものや日本での使い方と一部異なるものなどが少なくない。そのため、英語の音と比較するなどして子どもたちの興味・関心を高められる素材が豊富であり、言語や文化についての児童の気付きや思考を促すことができる単元でもある。

(3) 指導について

「友だちになりきった『Who am I? クイズ』をつくってクイズ大会をすること」を単元のゴールとし、単元を貫くコミュニケーション活動を通した目的意識のある活動を仕掛ける。例えば、「Do you like ~?」「Yes, I do./No, I don't.」を何度も口にできるように、クイズづくりのためのインタビュー活動を取り入れたり、積極的に伝えたり聞いたりする必要感を高めるためにクイズ大会という場を設定したりする。

また、5年生の6月という外国語活動の始めの時期であることから、活動の中でよりよいコミュニケーションの在り方やそのヒントを、「Good コミュニケーション」として子どもたちが考えたり実感したりすることができるような単元構想をする。そのために、よりよいコミュニケーションにつながる、言語、文化理解、コミュニケーション方略の3つの「見方・考え方」の視点からとらえられるような活動場面を意識的に取り入れていく。

これらのことから、本単元における新たな価値は、「対話」(=コミュニケーション)の中で何度も伝え方・聞き方の工夫を試しながら得られる、「Good コミュニケーション」への気付き、そしてそれらを意識した活動の楽しさにとらえる。

第1時では、単元のゴールとなる「Who am I? クイズ」を例示しながら単元の見通しを示し、身の回りのものを表す英語表現に慣れ親しむ活動を中心に行う。特に、単元の最初であることからインプットを意識し、子どもたちが英語表現を十分に聞き取れるような手立てを講じる。また、英語と外来語の比較から、言語についての興味・関心をもたせたい。

第2時及び第3時では、「Do you like ~? Yes, I do./No, I don't.」と「What ~ do you like? I like ~.」の表現を使ってクイズづくりのための情報を収集するという目的意識をもたせ、英語表現への慣れ親しみを図るとともに、活用場面ともなるインタビュー活動も設定する。

第4時では、前時までの英語表現を用いてのインタビュー活動とクイズづくりをグループ活動として行う。グループで活動することにより、コミュニケーションの幅が広がり、クイズについての工夫等にもつながるものと考えている。「Hi, friends!」掲載以外の身の回りのものを表す英語表現についてはALTに教えてもらうが、その語を知らなくても伝わる表現(ジェスチャーや絵、簡単な英語を使った説明等)によるコミュニケーション方法の工夫も大切にさせたい。

チャレンジタイムの時間には、クイズのための情報収集や出題練習を中心に行う。

そして単元終末となる第5時及びチャレンジタイムの時間には、グループでつくった「Who am I? クイズ」を出し合うクイズ大会を行い、友達の好き嫌いを紹介し合う中で他者理解を深める時間とする。また、クイズ大会に必要な「Close!」「That's right!」等の慣用表現も適宜扱いながら、雰囲気を高めたい。

加えて、来たる外国語の教科化へ向けて、本単元では評価の在り方についての試行も行う。特に、「聞くこと」「話すこと[やり取り]」についてはコミュニケーションの根幹となる領域であるものの、実際に評価するとなると難しさが伴うことが予想される。今回は、各時間の中での評価を中心に試行するが、成績を付けるための評価ではなく、次の授業へつなげる評価として子どもたちの意欲を持続できるようなものとした。

3 単元の見直し

- (1) クイズづくりのためのインタビューの中で、「Good コミュニケーション」を意識しながら、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
- (2) インタビュー活動やクイズ大会を通して、好きなものや嫌いなものを表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。
- (3) 日本語と英語の音の違いや、自分と友達との違いや共通点、特徴があることに気付く。

4 単元の構想（総時数 5 時間）

※CT英：チャレンジタイム英語の時間

時間	学習活動	教師の主な支援 (H)：HRT, (A)：ALT	評価
1	(1) 身の回りのものを表す英語表現(主に食べ物)と「I like ~」「I don't like ~」の表現を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の見通しがもてるよう単元のゴールを明示する。(H) ・ 英語と外来語の音の違いに気付けるよう留意した活動を設定する。(H&A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語と日本語の音の違いに気付き、活動に生かそうとする。
単元のゴール：友達のことをよく知るために「Who am I? クイズ」をつくってクイズ大会をしよう！			
CT英	・ 英語表現に慣れ親しむ。		
2 本時	(2) 身の回りのものを表す英語表現と「Do you like ~? Yes, I do./No, I don't.」の表現を知り、インタビュー活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ クイズづくりの情報収集に使う英語表現であることを確かめ、単元を通じた意欲の持続を図る。(H) ・ コミュニケーション活動につながる英語表現のインプットをねらった活動とともに、活用場面も設定する。(H&A) ・ 「Good コミュニケーション」について考えたり試したりする場面を設定する。(H&A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好き嫌いを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。
3	(3) 「What ~ do you like? I like ~」の表現を知り、インタビュー活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Good コミュニケーション」について考えたり試したりする場面を設定する。(H&A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好きなものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。
CT英	・ 英語表現に慣れ親しみ、インタビューする。		
4	(4) 「Do you like ~? Yes, I do./No, I don't.」「What ~ do you like? I like ~」の表現を使い、友達の好きなものや嫌いなものをインタビューし、「Who am I? クイズ」をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的意識のあるコミュニケーション活動となるよう、楽しいクイズをつくるために友達の情報をたくさん収集することを確かめる。(H) ・ 表現が分からない子どもがいる場合には、適切な表現方法を助言する。(H&A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好き嫌いを尋ねたり答えたりする表現を積極的に使っている。
CT英	・ インタビューし合い、クイズづくりをする。		
5	(5) 「Who am I? クイズ」大会を開く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しくクイズを出し合ったり互いの意外な一面に気付き合ったりできる雰囲気づくりをする。(H) ・ クイズや答え方の英語表現の補助をする。(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クイズにおける表現や好き嫌いを表す英語表現を積極的に使っている。
CT英	・ 「Who am I? クイズ」大会を開く。		

5 本時の実際 本時 (2 / 5)

- (1) ねらい
グループで考えた「Good コミュニケーション」を試すことによって発話量を増やし、好き嫌いを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。
- (2) 展開 ○ : 「仲間との対話」を通して新たな価値を創造するための手立て

時間	学習活動	教師の支援 (H) : HRT, (A) : ALT 評価
12分	<p>① あいさつをする。</p> <p>② 単元のゴールを確かめ、単元全体の活動の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">Goal of Lesson4 : 友達のことをよく知るために「Who am I ? クイズ」をつくってクイズ大会をしよう！</p> </div> <p>③ Today's Goal を確かめ、「Do you like ~?」「Yes, I do./No, I don't.」の表現を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">Today's Goal : 「Good コミュニケーション」を試しながら、友達にインタビューしてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動へ向かう雰囲気づくりをする。(H) & (A) ・ 単元のゴールとなる「Who am I ? クイズ」を例示し、単元の見通しを確かめる。(H) & (A) ・ 映像や会話モデルで「Do you like ~?」「Yes, I do./No, I don't.」の表現のインプットを図るが、より相手意識のある会話にできないかと投げかける。(H) & (A)
15分	<p>④ 「Good コミュニケーション」を考えながら、「Do you like ~?」「Yes, I do./No, I don't.」の表現に慣れ親しむ。</p> <p style="text-align: center;">【仲間との対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝わる声の大きさは、これぐらい？ ・ ジェスチャーとか声の調子とかかな。こんな感じかな？ Do you like ~? ・ 反応したりうなずいたりするといいい。質問するからやってみて。Do you like ~? ・ 英語は正確に言いたいな。どういえば？ ・ こんな風に言ってみたら？一緒に会話してみよう。Do you like ~? 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんなところに注意するとよいコミュニケーションとなるのかについて具体的に考えられるよう、HRT と ALT のやり取りモデルを示したり、それを基に工夫した方法を試したりする場をもつ。また、「よりよいコミュニケーションのための見方・考え方」の視点を示しながら、考えたり試したりする活動の中での英語表現への慣れ親しみを図る。(H) & (A) ・ 提案された考えを共有する場面をもち、次のインタビュー活動に生かすことができるよう確認する。(H) ・ 「Do you like ~?」「Yes, I do./No, I don't.」の意味や用法を確かめる。(H) & (A)
13分	<p>⑤ 主に食べ物についての好き嫌いについてインタビューし合い、「Who am I ? クイズ」のための情報を得る。</p> <p style="text-align: center;">【自分との対話】 【仲間との対話】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><基本会話> A: Do you like pineapples? B: Yes, I do. Do you like Natto? A: No, I don't.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的意識のあるコミュニケーション活動となるよう、クイズづくりのための情報交換でもあることを確かめる。(H) ○ 「先生チャレンジ」として HRT または ALT に1人1回インタビューすることとし、事前に評価の観点を示した上で「Do you like ~?」「Yes, I do./No, I don't.」が言えているか（言語の視点）、工夫のある伝え方をしようとしているか（コミュニケーション方略の視点）についての評価を行う。英語表現が分からない子どもがいる場合は助言しながら意欲を高める。(H) & (A)
5分	<p>⑥ 本時の活動をふり返る。</p> <p style="text-align: center;">【自分との対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を使って質問ができた。もっといろんなことを聞いてみたい。 ・ 相手が答えやすい質問の仕方ができて Good コミュニケーションになってきたと思う。 ・ みんなで考えたコミュニケーション方法を生かして、インタビューが盛り上がった。 <p>⑦ あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元全体への意欲や、「Good コミュニケーション」への意識の高まりが自覚できるように、「Goal of Lesson4」や「Today's Goal」を確認できるよう助言する。(H) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">伝え方を工夫しながら、好き嫌いを尋ねたり答えたりする表現を使ってインタビューし合っている。 (インタビュー活動、ふり返りカード)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の英語表現や活動をふり返り、次時の確認をする。(H) & (A)

(3) 「仲間との対話」を通して新たな価値を創造する子どもの姿

